

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月27日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・3歳児「秋の自然の探索」第2回

<テーマ設定理由>

10月から散歩に出掛けている。近隣には原っぱや霊園、団地内の公園にどんぐりのみをつける樹々が生い茂っている。子ども達は散歩途中でどんぐりを見つけて集めて保育園での遊びに使って楽しんできた。どんぐりで遊ぶ中で子どもが気付いたことについて探究活動を行った。

2. 活動スケジュール

10月より散歩に出掛けている。
散歩スケジュール 10月23日、29日
11月5日、12日、13日、18日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- どんぐりやまつぼっくりを入れるビニール袋
- 散歩用の救急用品や着替えなど
- 無線機
- 撮影機材 (iphone)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- 9:30から体操とマラソンを行い、終わってから近隣の霊園（前回とは違う場所）に散歩に出かける。
- 霊園入り口付近は、イチョウの葉や紅葉、どんぐりやまつぼっくりなどがたくさん落ちていて、そこで探究活動を行う。
- 自由に散策しながら「秋」を探して歩く。
- 枯れ枝や紅葉、どんぐりや松ぼっくり拾いを楽しむ。
- 落ち葉や枯葉を見立てて遊ぶ姿も見られた。
- 広場では大きなまつぼっくり、小さな（子ども、あかちゃん）松ぼっくりがたくさん落ちていた。自分で探し、拾うことを楽しみ、見つけるたびに保育士に知らせたり、嬉しそうに自分で持ち歩いたりしていた。
- 枝で遊ぶことは危ないことを伝えたが、長い物が好んでいる。
- 虫探しをするのに必要ということで枝を拾っている子どもがいた。土を掘るのに使っていた。
- 切り株を見つけ、太鼓のようにして叩いていた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- 自然物を見つけたときのやり取り
「みてみて！おっきい葉っぱあった！」「ほんとだ、こっちはちっちゃいよ」と大きさや形を比べる会話。「これなに？」「まつぼっくりかな？」「いっぱいひろっておうちにもってかえろう」と、名前をたずねたり、集める目的を話し合うやり取り。
- 一緒に遊びをつくるやり取り
石や切り株を前に「ここおみせやさんにしよう」「じゃあこれごはんね」と、ごっこ遊びの設定を友だち同士で相談するやり取り。自然のものを見つけて想像を膨らませて遊びに取り入れて楽しむ姿。「ここすべるから、きをつけてね」「てつないであげる」と、斜面や段差で互いを気づかたり助け合う声かけ。
- 保育者とのやり取り
子どもが拾ったものを見せながら「これはどこに落ちてたの？」「なんでここにいっぱいあるんだろうね」と、保育者が問いかけて子どもの気づきを引き出す会話。
- 心情を共有するやり取り
「たのしかった」「またいこうね」と友だちと一緒に期待や喜びを共有する会話。「いっぱいひろえたね」「つかれたけどたのしかったね」と、帰り道に今日の経験を振り返る。

こうしたやり取りを通して、子どもたちは「見つける→伝える→一緒に遊ぶ→振り返る」という流れの中で、言葉・感情・体験を豊かにつなげていく姿が見られた。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- 前回出かけたけいけんから、「今度は何がみつかるかな？」「また〇〇があるかな？」と期待したり、想像したりして楽しみに参加できたと思います。何度も繰り返して探究することは大切だと思いました。
- 「落ち葉を拾う」「集める」「入れ物に入れる」といいことを楽しんでいました。どんぐりやまつぼっくりが「ここにもあった」「もっとたくさん探したい」という意欲につながっていると感じました。
- 自然に触れる機会がどんどん失われていく現代だからこそ、保育園で積極的に散歩に出掛け自然に触れる機会を作ることは大切だと感じました。そこに何かがあるかなという問いをもって出かけることで、より探索や探究を楽しめると感じました。
- 見つけたものを保育士や友達と伝え合う喜びを感じました。言葉で伝えることの大切さを子どもが遊びを通して経験できることは素晴らしいと感じました。
- 石や切り株、土の盛り上がりなど、遊具ではない環境そのものを遊び場に変えており、子どもは大人が用意した教材以上に、身の回りの自然物から豊かな遊びを創り出す力があることを感じました。
- 大人が「これは松ぼっくりだよ」と教える前に、子ども同士で見せ合い、名前を尋ね合う姿から、説明よりもまず「見せ合う・比べる」場面を保障することで、主体的な言葉のやりとりが増えるのだと思いました。
- 保育者が少し離れて見守ることで、子どもが自分の興味のある場所へ歩いていき、満足いくまで試す姿が見られ、指示を細かく出しすぎない環境設定の大切さを実感しました。
- 公園までの道のりや線路脇の景色など「行き帰りの道」も、落ち葉の変化や音に気づく学びの場になっており、目的地だけでなく移動の時間も含めて計画することの大切さに気づかされました。
- 袋や入れ物を用意したことで、集めたものを「見せる・ためる・持ち帰る」楽しさにつながり、道具一つで活動への意欲や達成感が高まると思いました。
- 3歳児にとって「秋を探す」とは、「秋って何だろう」という問いを体験的に学びいい機会だと思いました。興味を持ったものをじっと見たり、触ったりしながら確かめる過程そのものが学びであると改めて学びました。
- 同じ場所でも、怖がって保育者のそばを離れない子・どんどん奥へ探検する子・友だちに寄り添う子など反応はさまざまであり、一人一人のペースや安心のかたちを尊重した関わりが必要だという気づきました。